

データアーカイブWG活動報告

2021年3月17日 光赤天連総会

現WGメンバー 古澤久徳, Pyo Tae-Soo, 小杉城治, 高田唯史, 花山秀和, 中島康, 林将央, 田中賢幸, 岩田生, 寺居剛 (国立天文台), 大宮正士 (ABC), 諸隈智貴, 大澤亮, 鮫島寛明 (東京大), 矢部清人 (カブリIPMU), 川端弘治 (広島大), 富永望 (甲南大), 秋山正幸 (東北大), 野上大作 (京都大), 本田敏志 (兵庫県立大), 山村一誠, 海老沢研 (JAXA) 下線は世話人

• WGの目的

- 日本の地上可視赤外観測データアーカイブの維持と改善を目指し、データアーカイブの運用方法について光赤外天文学コミュニティに対する提案をまとめること
 - 光赤天連声明として提案書の採択を目指すこと
- 参考) <http://gopira.jp/sym2020/1-12-Furusawa.pdf> (光赤天連シンポジウム講演)
https://www.adc.nao.ac.jp/people/furusawa/work/da_ws/ (WG提案前に行われた前身ワークショップ)

• 活動総括

- 2020年9月14日光赤天連シンポジウムにて、前身の有志ワークショップの議論を紹介し、将来の日本のデータアーカイブの運用改善にむけた提案書を作成するワーキンググループの立ち上げを提案し支持を得た
- 22名の参加の得て活動を開始し、これまでに5回の会合およびサブグループで議論を行った
- 提案書の内容の方向性はおおむね固まり、提案内容の詰めと草稿および関係各所との調整を進めている
- 本総会での提案を目指していたが、提案書の作成にまだ時間を要するため、2021年度前半での提案書完成を目指して引き続き活動する

- 補足

- これから提案書をまとめるにあたり、観測データに関わる関係各位、特に望遠鏡・装置関係者・アーカイブ運用者の皆さんとの調整が重要になるため、原稿へのフィードバックや意見交換をお願いした際にはぜひご協力を賜りたい
- WGへは随時参加いただけるので、世話人までご連絡下さい。

会合での議論内容

- 第1回会合 2020年10月14日 10:30-12:20 (16名)
 - WG立上げの背景と目的の共有のための議論を行った
 - WGの議論対象を日本の地上光赤外望遠鏡の観測データアーカイブとし、我々光赤外コミュニティに対する提案書を作ることで合意した
 - 国立天文台のデータ運用方針に関する過去の議論を共有した
- 第2回会合 2020年11月5日 13:00-14:40 (15名)
 - 引き続き国立天文台のデータ運用方針に関する過去の議論を共有した
 - 提案のたたき台をレビューし、WGで議論すべき内容について意見交換を行った
 - データの提供者、アーカイブ運用者、利用者の各立場のデータへの関わり方を意識して提案を検討することとした
- 第3回会合 2020年12月10日 13:00-14:40 (16名)
 - データ運用関係者（提供者、アーカイブ）、データ利用者、コミュニティの3つのグループに分かれて、それぞれの立場からのデータへの関わり方やその改善について検討すべき内容の議論を行った
 - プロジェクトの大小に関わらずアーカイブ構築に対するポジティブな動機付けや支援が必要であることを議論した
- 第4回会合 2021年1月13日 9:00-11:40 (17名)
 - 各グループの議論の進捗を確認し、データのトレーサビリティの確保、データ運用の指針を決める委員会の設置の必要性などを提案に含めることを議論した
 - 提案書ドラフトの改訂方針を議論し、提案書は広い意味でデータの科学運用に関する内容とすること、詳細なデータ運用ポリシーは本WGの提案書ではなく各機関で定義すべきであることを確認した
- 第5回会合 2021年2月3日 10:30-11:40 (15名)
 - 報告書ドラフトをレビューしながら加筆・修正箇所を確認した
 - 光赤天連総会で進捗状況を報告することを確認した